



○議長（楠本正隆君）満場御異議ナシト認メマス、結了ヲ報ジマス、ソレヨリ酒造税ニ開スル委員長ヨリ今日ハ右調査ニ掛ルニ依テ席ヲ退クト申スコト、左様ニ御承認ヲ請ヒマス

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）  
○議長（楠本正隆君）次ハ日程ノ第一、日本勸業銀行法案ノ一讀會ヲ開キマス、朗讀ヲ省略致シマス

（「異議ナシ」ト呼フ者アリ）

## 第一 日本勸業銀行法案（政府提出）

### 第一讀會

〔左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ掲載ス〕

### 日本勸業銀行法

第一章 総則  
第一條 日本勸業銀行ハ農業工業ノ改良發達ノ爲資本ヲ貸付スルヲ以テ目的トスル株式會社ニシテ其ノ本店ヲ東京ニ置ク

第二條 日本勸業銀行ノ資本金ハ一千萬圓トス但株主總會ノ決議ニ依リ政府ノ認可ヲ經テ資本金ヲ増加スルコトヲ得

第三條 日本勸業銀行ノ各株式ノ金額ハ二百圓トス

第四條 日本勸業銀行ノ存立時期ハ設立免許ノ日ヨリ百箇年トス但株主總會ノ決議ニ依リ政府ノ認可ヲ經テ存立期限ヲ延長スルコトヲ得

第二章 重役  
第五條 日本勸業銀行ニ總裁副總裁各一人理事監査役各三人以上ヲ置ク

第六條 總裁ハ日本勸業銀行ヲ代表シ其ノ事務ヲ總理ス

副總裁ハ總裁事故アルトキ其ノ職務ヲ代理シ總裁缺員ノトキ其ノ職務ヲ行フ

副總裁及理事ハ總裁ヲ補助シ定款ノ定ムル所ニ從ヒ日本勸業銀行ノ業務ヲ分掌ス

監査役ハ日本勸業銀行ノ業務ヲ監査ス

第七條 總裁副總裁ハ百株以上ヲ所有スル株主中ヨリ政府之ヲ命シ其ノ任期ヲ五箇年トス但其ノ任期満限ノ後再任ヲ命スルコトヲ得

理事ハ五十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ二倍ノ候補者ヲ選舉シ政府其ノ中ヨリ之ヲ命シ任期ヲ五箇年トス但其ノ任期満限ノ後本條規

條ノ手續ニ依リ再任ヲ命スルコトヲ得

第八條 總裁副總裁及理事ハ在任中何等ノ名稱ニ拘ラス他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ得ス但主務大臣ノ認可ヲ得タルトキハ此ノ限ニアラス

總裁副總裁理事及監査役ハ任命若クハ選定ノ六箇月前ヨリ引續キ本條規定ノ株數ヲ所有スル者ニ限ル

第九條 通常株主總會ハ毎年二回定款ニ定メタル時期ニ於テ總裁之ヲ招集ス

第十條 臨時株主總會ハ臨時ノ事項ヲ議スル爲何時ニテモ總裁之ヲ招集ス

第十一條 監査役又ハ總株金ノ五分ノ一以上ニ當ル株主ハ會議ノ目的ヲ示シテ臨時株主總會ノ招集ヲ總裁ニ請求スルコトヲ得

總裁前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ臨時株主總會ヲ招集スヘシ

第十二條 株主總會ニ於テハ株主ハ議決權ヲ有スル株主ノ外代理ヲ委託スルコトヲ得ス但法律上ノ代理人ハ此ノ限ニアラス

日本勸業銀行ノ役員及使用人ハ株主總會ニ於テ株主ノ代理人タルコトヲ得ス

第十三條 株主ノ議決權ハ十株ニ付キ一箇トス但十一株以上ヲ有スル株主ニ在リテハ五十株ヲ増ス每ニ一箇ヲ加フ

他人ノ代理ヲ爲ス者ハ二人以上ヲ代理スルコトヲ得ス

### 第四章 営業

第十四條 日本勸業銀行ハ五十箇年以内ニ於テ年賦償還ノ方法ニ依リ不動產ヲ抵當トシテ貸付ヲ爲スモノトス

日本勸業銀行ハ年賦償還貸付金總高ノ十分ノ一二相當スル金額ヲ限り不動產ヲ抵當トシ又ハ地金銀若クハ國債證券地方債證券ヲ質トシ五箇年以内ノ定期償還貸付ヲ爲スコトヲ得

第十五條 日本勸業銀行ハ府縣郡市町村其ノ他公共團體ニ貸付ヲ爲ス場合ニ於テ抵當ヲ徵セサルコトヲ得

第十六條 日本勸業銀行ニ於テ不動產抵當ヲ徵スルトキハ總テ第一抵當ナルコトヲ要ス但舊債アル場合ニ於テ日本勸業銀行ヨリ借入スル新債ヲ以テ舊債ヲ償還スル效果ニ依リ新債ノ第一抵當トナルコトヲ得ヘキトキハ此ノ限ニアラス

第十七條 日本勸業銀行ニ於テ抵當トシテ徵スル土地ハ永續スヘキ確實ナル收益ノ見込アルモノニ限ル

日本勸業銀行ニ於テ抵當トシテ徵スル建物ハ保險付ノモノニ限ル但抵當物ノ外ニ貸付金高二倍以上ノ價格ヲ有スル動產又ハ不動產ヲ添抵當ト爲斯場合ニ於テハ保險ニ付セサルコトヲ得

第十八條 不動產ヲ抵當トシテ徵スル建物ハ保險付ノモノニ限ル但抵當物ノ外ニ貸付金高二倍以上ノ價格ヲ有スル動產又ハ不動產ヲ添抵當ト爲タル價格ノ三分ノ二以内トス

第十九條 年賦金ハ元金ト利子トヲ併セテ之ヲ計算シ各年ヲ通シテ一定平前項ノ償還額ハ之ヲ變更スルコトヲ得ス但貸付金ノ一部償還ノ場合ニ於テ其ノ額ヲ更定スルハ此ノ限ニアラス

第二十條 土地抵當貸付ニ對スル年賦金ハ其ノ抵當地ノ平年收益額ヨリ公課額ヲ扣除シタル殘額ヲ超過スルコトヲ得ス

第二十一條 貸付金ノ年賦償還ニ付キテハ一箇年以上五箇年以内ニ於テ据置年限ヲ定ムヘシ但其ノ年限間ノ利子ハ此ノ限ニアラス

第二十二條 債務者年賦金、定期償還金又ハ利子ノ拂込ヲ遲延シタルトキハ拂込期日ノ翌日ヨリ其ノ金額ニ對シ利子ヲ仕拂フノ義務ヲ負フ

第二十三條 年賦償還ノ方法ヲ以テ借入ヲ爲シタル債務者ハ償還期限前ニ借用金ノ全部若クハ一部ヲ償還スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ日本勸業銀行ハ定款ニ於テ定ムル所ノ率ニ依リ相當

ノ手數料ヲ要求スルコトヲ得

第二十四條 債務者ハ借用金ノ五分ノ一以上ヲ償還シタルトキハ其ノ割合ニ應シ抵當物一部ノ解除ヲ要求スルコトヲ得其ノ殘額ニ對シテモ亦同シ

第二十五條 日本勸業銀行ハ年賦金ノ拂込ヲ遲延スル債務者ニ對シ償還期限前ト雖貸付全額全部ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

第二十六條 日本勸業銀行ハ抵當物ノ價格減少シ貸付金償還残額ニ對シ第十八條ノ割合ニ不足ヲ生シタルトキハ増抵當ヲ要求シ若クハ其ノ不足ニ相當スル貸付金額ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

債務者前項ノ要求ニ應セサルトキハ日本勸業銀行ハ償還期限前ト雖貸付金全部ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

第二十七條 抵當不動產ノ全部若クハ一部カ土地收用法ニ依リ收用セラル場合ニ於テ日本勸業銀行ハ償還期限前ト雖貸付金ノ償還ヲ要求スルコトヲ得但債務者ニ於テ收用権金ヲ供託シ又ハ相當ノ不動產ヲ以テ増抵當トスルトキハ此ノ限ニアラス

其ノ收用一部ニ止マルトキハ償還ノ要求モ其ノ割合ニ應ヘキモノトス

第二十八條 無抵當ニテ借入ヲ爲シタル府縣郡市町村其ノ他公共團體ニ於テ年賦金定期償還金又ハ利子ノ拂込期日ヲ過ギ之ヲ拂込マサルトキハ

日本勸業銀行ハ監督官廳ニ其ノ處分ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ日本勸業銀行ハ府縣ニ對シテハ内務大臣ニ郡市町村其ノ他公共團體ニ對シテハ第一次監督官廳ニ其ノ請求ヲ爲スヘシ

監督官廳請求ヲ受ケタルトキハ府縣郡市町村其ノ他公共團體ニ命令シテ延滞金及第二十二條ノ利子ヲ拂込マシムヘシ

第二十九條 日本勸業銀行ハ農工銀行法ニ依リ設立シタル各農工銀行ノ發行スル農工債券ヲ引受クルコトヲ得

第三十條 日本勸業銀行ハ農工債券ヲ引受ケントスル場合ニ於テ農工銀行ノ業務及財產ノ實況ヲ調査スルコトヲ得

第三十一條 日本勸業銀行ハ地金銀又ハ有價證券ノ保護預リヲ爲スコトヲ得

第三十二條 日本勸業銀行ハ營業上餘裕金アルトキハ一時各種ノ國債證券得

第三十三條 日本勸業銀行ハ此ノ法律ニ記載セサル業務ヲ營ムコトヲ得ス

### 第五章 勸業債券

第三十四條 日本勸業銀行ハ資本金四分ノ一以上ノ拂込アリタルトキハ拂込金額ノ十倍ヲ限り勸業債券ヲ發行スルコトヲ得但年賦償還貸付金總高

及其次ノ引受ケタル農工債券現在高ヲ超過スルコトヲ得ス

第三十五條 勸業債券ハ券面金額ヲ五十圓以上トシ無記名利札附トス但應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名ト爲スコトヲ得

第三十六條 日本勸業銀行ハ少クトモ年賦償還貸付金及其ノ引受ケタル農工債券ノ償還高ニ應シ毎年二回以上抽籤ヲ以テ勸業債券ヲ償還スヘシコトヲ得但其ノ方法及金額ハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三十七條 日本勸業銀行ハ勸業債券借換ノ爲一時第二十四條ノ制限ニ依ラス低利ノ勸業債券ヲ發行スルコトヲ得

低利ノ勸業債券ヲ發行シタルトキハ發行後一箇月以内ニ抽籤ヲ以テ其ノ發行券面金額ニ相當スル舊勸業債券ヲ償還スヘシ

第三十九條 日本勸業銀行ハ年賦償還貸付金ノ償還延滞シテ豫期ノ金額ニ達セサルトキ及其ノ引受ケタル農工債券ニシテ之ヲ發行シタル農工銀行解散ノ爲ニ全額ノ償還ヲ得ルコト能ハサルトキハ第三十六條ノ償還ト同期ニ抽籤ヲ以テ其ノ延滞金額又ハ償還ヲ得サル農工債券面金額ニ相當スル勸業債券ヲ償還スヘシ

第四十條 勸業債券ノ所有者其ノ元金又ハ利子ヲ要求セサルトキハ元金八十五箇年利子ハ五箇年ニシテ其ノ要求ノ權ヲ失フモノトス

第四十一條 勸業債券ヲ偽造又ハ變造シテ行使シタル者ハ刑法第二百四條ノ例ニ依リ處罰ス其ノ模造ニ關シテハ明治二十八年法律第二十八號通貨及證券模造取締法ニ依リ處分ス

第四十二條 勸業債券ニ關シ此ノ法律ニ規定セサル事項ハ明治二十三年法律第六十號ヲ適用ス

### 第六章 準備金

第四十三條 日本勸業銀行ハ每年準備金トシテ資本ノ缺損ヲ補フ爲利益ノ百分ノ八以上ヲ積立テ及利益配當ノ平均ヲ得セシムル爲利益ノ百分ノ二以上ヲ積立スヘシ

### 第七章 政府ノ監督及補助

第四十四條 主務大臣ハ日本勸業銀行ノ業務ヲ監督ス

第四十五條 日本勸業銀行ハ其ノ定款ヲ變更セントスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第四十六條 日本勸業銀行ニ於テ支店又ハ代理店ヲ設置セントスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ又主務大臣ニ於テ支店若クハ代理店ヲ要用ナリトスルトキハ日本勸業銀行ニ命シテ之ヲ設置セシムルコトアルヘシ

第四十七條 日本勸業銀行ハ主務大臣ノ認可ヲ經ルニアラサレハ株主ニ配當金ノ分配ヲ爲スコトヲ得ス

第四十八條 主務大臣ハ日本勸業銀行ノ營業上法律命令又ハ定款ニ背戾シ若クハ公益ヲ害スル事件アリト認ムルトキハ之ヲ制止スヘシ

第四十九條 日本勸業銀行ハ主務大臣ノ命ニ從ロ其ノ營業ニ關スル諸般ノ景況及計算報告書ヲ差出スヘシ

第五十條 主務大臣ハ必要ナリト認ムルトキハ日本勸業銀行ノ貸付金額及方法ヲ制限スルコトヲ得

第五十一條 日本勸業銀行貸付金ノ利子ノ最高歩合ハ每營業年度ノ初ニ於テ主務大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ムヘシ其ノ營業年度ニ於テ之ヲ變更セントスルトキモ亦同シ

第五十二條 日本勸業銀行ニ於テ勸業債券ヲ發行セントスルトキハ直接ニ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第五十三條 主務大臣ハ特ニ日本勸業銀行監理官ヲ置キ日本勸業銀行ノ業務ヲ監視セシム

第五十四條 日本勸業銀行監理官ハ何時ニテモ日本勸業銀行ノ金庫、券書庫、帳簿及諸般ノ文書ヲ検査スルコトヲ得

日本勸業銀行監理官ハ監視上必要ナリト認ムルトキハ何時ニテモ日本勸業銀行ニ命シテ營業上諸般ノ計算及景況ヲ報告セシムルコトヲ得

日本勸業銀行監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得但議決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

第五十五條 日本勸業銀行ノ配當金年百分ノ五ニ達セサルトキハ政府ハ創立初季ヨリ十箇年間ヲ限り之ニ達セシムヘキ金額ヲ補給スベシ其ノ額ハ如何ナル場合ト雖拂込資本金ノ百分ノ五ヲ超過スルコトヲ得ス

#### 第八章 罰則

第五十六條 日本勸業銀行ニ於テ左ノ事犯アルトキハ總裁若クハ總裁ノ職務ヲ行ヒ又ハ代理スル副總裁ヲ二十圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ス其ノ事犯副總裁又ハ理事ノ分擔業務ニ係ルトキハ副總裁理事ヲ過料ニ處スルコト亦同シ

第十四條ノ規程ニ反シ貸付ヲ爲シタルトキ

第十六條ノ規程ニ反シ第一抵當ニアラサルモノニ對シテ貸付ヲ爲シタルトキ

第三十二條第二項ノ規程ニ反シ營業上ノ餘裕金ヲ使用シタルトキ

第四十三條ノ規程ニ反シ此ノ法律ニ記載セサル業務ヲ營ミタルトキ

第三十四條ノ規程ニ反シ勸業債券ヲ發行シタルトキ但第二十七條第一項ニ該當スルモノハ此ノ限ニアラス

第六三十條第一項第三十七條第二項及第三十九條ノ規程ニ反シ勸業債券ノ償還ヲ爲サルトキ

第七四十三條ノ規程ニ反シ利益金ヲ處分シタルトキ

第五十七條 日本勸業銀行ノ總裁副總裁及理事第八條ノ規程ヲ犯シタルトキハ其ノ過料前條ニ同シ

第五十八條 前二條ニ掲ケタル過料ハ裁判所ノ命令ヲ以テ之ヲ科ス但其ノ命令ニ對シ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

#### 附 則

第五十九條 政府ハ設立委員ヲ置キ日本勸業銀行設立ノ免許ヲ與フルマテ其ノ發起ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

第六十條 設立委員ハ定款ヲ作リ政府ノ認可ヲ得タル後株主ヲ募集ス

第六十一條 設立委員ハ株主ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込簿ヲ政府ニ差出シ銀行設立ノ免許ヲ真請スヘシ

第六十二條 設立委員前條ノ免許ヲ得タルトキハ其ノ事務ヲ日本勸業銀行

第六十三條 設立初度ノ總裁副總裁理事及監查役ノ第七條ニ依リ所有スヘキ株數ノ時期ニ付テハ同條第四項ヲ適用スルノ限ニアラス

第六十四條 設立初度ノ總裁副總裁及理事ノ任期ハ三箇年トス

設立初度ノ理事及監查役ハ株主中ヨリ政府之ヲ命ス

○議長(楠本正隆君) 大藏大臣渡邊君

(大藏大臣子爵渡邊國武君演壇ニ登ル)

○大藏大臣(子爵渡邊國武君) 諸君、此戰後ニ於テ經濟ノ發達ト民產ノ増殖ヲ計ルタメニ政府ハ金融機關ノ擴張ニ注意ヲ致シテ、不日ニ日本勸業銀行法案、農工銀行法案等ヲ提出スル趣ハ前會ニ於テ諸君ニ向シテ明言シテアリマスカラ、再び之ヲ繰返シテ申ス必要ハアリマセヌガ、全體政府ニ於テハ以前カラシテ今日此宇内各國競爭ノ間ニ立ツテ、國民ノ經濟ノ進歩發達ヲ全ウスルニハ、少クトモニノ機關ヲ備ヘナケレバナラヌト云フコトヲ感ジテ居シタノデス、ソレハ第一ニハ爲替割引其他ノ方法ヲ以テ商業社會ノ金融ヲ圓滑ニスル所ノ中央銀行、第二ニハ農工業ニ依リテ事ヲ興シ、業ヲ創メテ、國家ノ富實ヲ培養スル所ノ農工商ニ向シテ資本ヲ媒介スル所ノ勸業銀行、第三ニハ細民ノ貯蓄ヲ安全ニシテ貯蓄心ヲ獎勵スルタメノ貯蓄銀行、此三ツハ是非無クテハナラヌト云フコトヲ初ヨリシテ感ジテ居シタノデアリマス、然ルニ是ニマデ設立コト亦同シ

第一第十四條ノ規程ニ反シ貸付ヲ爲シタルトキ

第二第十六條ノ規程ニ反シ第一抵當ニアラサルモノニ對シテ貸付ヲ爲シタルトキ

第三第三十二條第二項ノ規程ニ反シ營業上ノ餘裕金ヲ使用シタルトキ

第四第三十三條ノ規程ニ反シ此ノ法律ニ記載セサル業務ヲ營ミタルトキ

第五第三十四條ノ規程ニ反シ勸業債券ヲ發行シタルトキ但第二十七條第一項ニ該當スルモノハ此ノ限ニアラス

第六三十條第一項第三十七條第二項及第三十九條ノ規程ニ反シ勸業債券ノ償還ヲ爲サルトキ

第七四十三條ノ規程ニ反シ利益金ヲ處分シタルトキ

第五十七條 日本勸業銀行ノ總裁副總裁及理事第八條ノ規程ヲ犯シタルトキハ其ノ過料前條ニ同シ

第五十八條 前二條ニ掲ケタル過料ハ裁判所ノ命令ヲ以テ之ヲ科ス但其ノ命令ニ對シ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

五議會ト存ジマシタガ、本大臣ハ諸君ニ向シテ其設立ノ必要ナルコトヲ明言致シテ置キマシタ、ソレ以來晝夜屬僚ヲ督シテ其調査ニ從事シ、丁度第八議會開ク前ニ於テ案モ成リ、内閣ノ議モ決シ、上裁マテモ濟シテ居リマシタガ、何分アノ際ハ日清交戦ノ最中テアシテ、新ニ事ヲ興シ業ヲ創メル時デナイト思ヒマシタカラ、遺憾ナガラ提出ニ至ラヌノデアリマシタ、今日既ニ日清ノ事モ其局ヲ結デ、東洋ノ天地ハ平和ニ歸シ、亞イデ起ル所ノ此農工商ノ大戰爭ニ對シテ、一層此勸業銀行、農工銀行ノ設立ノ必要デアルト云フコトハ、諸君モ蓋シ御同感デアラウト考ヘマス、提出シテアリマス法案ニ依リマスルト、中央機關トシテ設立セラレマスル日本勸業銀行ハ資本金ガ一千萬圓、之ニ向シテ其資本ノ十倍マデノ債券ヲ發スルノ特權ヲ與ヘマスル、又十箇年間ヲ限ッテ一年五朱ノ補償利子ヲ與ヘル、又地方機關トシテ各府縣ノ下ニ置カレマス所ノ農工銀行ハ、其資本ノ五倍マデノ債券ヲ發スルノ特權ヲ與ヘルノト、凡ソ國費一千万圓バカリヲ支出レマシテ、之ヲ各府縣ニ分シテ各府縣ノ財產トシテ、其株式ヲ持タセル、斯ウ云フコトニナシテ居リマス、斯様ナ方法ニ依テ唯今マデ無用ニ屬シテ居シヤウナ此不動產則チ土地ノ信用ヲ活用シテ、各種有益ナル事業ノ資本供給ニ充テルト云フコトハ、是ハ事業者ノ固ヨリ希望スル所デアリマス、且ツ是マデノ所デハ此商業ニ屬スル所ノ各銀行ノ資本ノ固著シテ居リマスモノヲ開放シテ、之ヲ以テ商業上ノ資本モ豊ニナリ、利子モ亦從シテ下ルコトデアリマス、且ツ之ト同時ニ又免ニ角危險ナル投機的ノ事業ニ當テ箱メタガル零細ナル資本ヲ以テ此安全有益ナル所ヘ投入スルコトハ、實ニ今日之ヲ宇内ノ經濟上ノ傾キニ鑑ミマシテモ、亦我國ノ現在ノ有様ニ照シマシテモ、餘程必要ノ事デアラウト思ヒマス、ドウゾ是ハ十分ナル審査ヲ遂ゲマシテ、速ニ通過セラレンコトヲ希望致シマス

○高木正年君(百一十九番) 私ハ大藏大臣ニ御尋ニ致シタイ、此第三十四條ノ「勸業債券ヲ發行スルコトヲ得」トアル、是ハ矢張期限ヲ極メテ發行スル

コトデアラウト思ヒマスガ、果シテ有期デアルカ、若クハ無期——勸業銀行ノ存在ノ年限デアルカ、其間ニモソト年限ヲ縮メテ發行スルコトガ出來ルカ、ソレヲ御尋致シタイ、其次ノ質問ハ第三十七條「日本勸業銀行ハ勸業債券ヲ發行スルコト借換ノ爲メ一時第三十四條ノ制限ニ依ラズ、低利ノ勸業債券ヲ發行スルコトヲ得」トアル、此低利ノ勸業債券モ矢張是ハ一時ノモノデアルカラシテ、必ズ極短イ期限デ發行スルモノデアラウト思ヒマスガ、是モ一應御尋致シタイ、今一シニハ勸業債券ノ中デ低利ノ債券ノ如キモノハ、矢張日本銀行ガ擔保トシテ之ヲ取り得ベキ品デアラウト思ヒマスガ、ソレヲ序ニ御尋ヲ致シタイ、且ハ此勸業銀行ノ債券ハ、此銀行ノ信用ノ上デ、自由ニ金融ノ一ノ融通機關ト爲ツテ相助ケテ參ルモノデアリマセウガ、或ル時ニハ此債券ハ時ノ相場ニ依ツテ低落スルコトガアラウト思ヒマス、斯様ナ場合ニ日本銀行ガ擔保トシテ取得ラル、譯デ、低落スル時ノ極ク危險ナル場合ヲ防グコトガ出來ルト思ヒマスガ、其邊ニ就イテハドウ云フ考ヲ持ツテ居ラル、カ、一應御尋ヲシマス

(政府委員大藏書記官添田壽一君演壇ニ登ル)  
○政府委員(添田壽一君) 高木君ニ御答ヲ致シマス、勿論是ハ適宜ノ(此時高木正年君「大聲デ願ヒマス」ト呼フ)ハイ、勿論是ハ適宜ニ期限ヲ附シテ發行スルモノデアリマス、借替ノ場合ニ於テモ亦同様デゴザイマス、又日本銀行ガ擔保トスルコトモ許シ得ラル、ト存ジマス

○門脇重雄君(百五十八番) 質問ヲ致シマス、本案ニハ單ニ低利トアリマスガ、其利子ノ程度ハ如何ナル程度デアリマスカ

(政府委員大藏書記官添田壽一君演壇ニ登ル)  
○政府委員(添田壽一君) 御答ヲ致シマス、低利ト申シマスルノハ、市場ノ利子ヨリハ幾分カ低メル積デアリマスガ、マダ營業ノ時期ニ至リマセヌカラ、明ニ何分ト云フコトハ申上グラレマセヌガ、苟モ此法律ヲ設ケマス以上ハ、一般ノ利子ヨリハ二分位低メル積リデアリマス、又抵當ハ土地家屋ノ如キ不動產ニ限ル積デアリマス

○西村禮作君(二百三十二番) 本案ハ農工銀行ノ方ト同一ノ性質ノモノデア

ルト思ヒマスガ、農工銀行ノ方ニハ使用ノ目的ガ第七條ニアリマスガ、勸業

銀行ノ方ニハ其使用ノ目的が規定シテナイハ如何ナ次第デアリマスカ、其目

的が規定シテナイ時ニハ本案ヲ設ケラレタ趣旨ヲ徹底スルコトガ出來マイト

考ヘマスガ、其點ヲ一つ伺ヒタク、ソレカラ今一ツハ此銀行ハ信用ガ堅ク、

資金ヲ得ルコトガ容易デゴザイマス、元ヨリ此法ヲ設ケル趣旨ハ、ソコ等ニ

アリマスガ、然ルニ第十八條ニ土地ノ價格ヲ鑑定スルト云フコトガゴザイマス、其鑑定ニ就イテハ方法ガナイデアラウト思フ、鑑定ハ大變ニ重大ナ關係ヲ持ツコトデアラウト思ヒマスガ、實際土地ノ價格ヲ見マスルト、各地種

種ノ原因カラ大イナル差異ガアルノデゴザイマスガ、或ル村ニ依ルト一字ノ

中デモ大變ニ高低ガアルト云フコトデアルガ、サウスレバ從フテ之ガ鑑定ノ

方法モ非常ナ困難ナコトデアラウト思ヒマス、年賦償還法デアルト二十條ノ

規定ガアラテ、稍確實ノヤウニ思ヒマスガ、定期ノ償還法ニナリマスト、鑑定ニ關スル方法ガ指定シテゴザイマセヌデ、ソレガタメ、不確實ノヤウニ思ヒマスガ、是ハ政府ニ於テハ決シテ危険ノ憂ハナイト云フ御考デアリマスカ

(政府委員大藏書記官添田壽一君演壇ニ登ル)

○政府委員(添田壽一君) 御答ヲ致シマス、此勸業銀行ノ方ニハ、第一條ニ舉ゲテゴザイマス大體ノ目的ノ外ニ目的ヲ指定シテナインデアリマシテ、農工銀行ノ方ニハ其事が明ニ指定シテアリマスノハ、此農工銀行ノ場合ニ於キマシテハ、若シ貸付ノ目的ニ反スルトキニハ、一時ニ償還ヲ命ズルコトガ明ニ規定シテアル結果デアリマス、併シ何レノ場合ニ於キマシテモ、農業、工業ノ改良、發達ト云フ目的ノ外ニハ出デナイノデアリマス、ソレカラ第二ノ御問ノ鑑定價格ノコトデアリマスガ、是ハ定款ヲ以テ縝密ニ規定スル積リテアリマス

○吉本榮吉君(八十二番) 此法律ニハ、實施期限ガ見エマセヌヤウデアリマスガ、イツカラ實行ニナルノデアリマスカ、又創立ノ手續モ見エマセヌヤウデアルガ、株主ヲ申込ムハ何處ニ申込ミマスカ、又株主ヲ募集スル手續ハドウスルノデスカ

(政府委員大藏書記官添田壽一君演壇ニ登ル)

○政府委員(添田壽一君) 吉本君ニ御答致シマス、此法律ノ施行ハ一般ノ法例、即チ一般ノ施行ノ規定ニ依ル積デアリマス、ソレカラ創立ノ手續ハ、日本勸業銀行ノ方ニ於キマシテハ此末ノ條ニ書イテアリマスガ如ク、創立委員ノ規定スル所一定ムル所ニ依ルノデアリマス、又農工銀行ノ場合ニ於キマシテハ、一般商法ノ規定ニ依ル積デアリマス

○真下珂十郎君(二百四十二番) 私モ質問致シマスガ、唯今ハ十二番カノ御尋デシタガ、此勸業銀行ハ債券ヲ發行スルコトガ得ルト云フノデ、先程大藏大臣ノ演説モアリマシタガ、此不動產ヲ固定スルコトナク、債券ヲ發行シ得ラル、コトデアレバ、隨分利益ノアルコトデアラウト考ヘル、併ナガラ、低利ノ金ヲ貸スト云フコトデアルカラ、殘ルカ残ラヌカワコハ分ラヌト云フ政府委員ノ御話モアッタガ、自分ノ考ニ依ルト免モ角株ノ募集ニ應ジヤウト云フ人ハ澤山アラウト云フコトデアルト、從來政府ガ株ヲ募集セラル、トキニ、日本銀行ノ株ノ募集ノ如キ、既ニ田舎ニナルト満株ニナシテ應ズルコトガ出來ヌト云フ有様デアタ、又正金銀行ニ就イテモ猶サウデアル、デ矢張從前ノ通ノ是ハ御運ビニナルノデスカ

(政府委員大藏書記官添田壽一君演壇ニ登ル)

○政府委員(添田壽一君) 御答致シマス、此株ノ募方ニ就キマシテハ、所謂創立委員——此法案ニアリマス創立委員ノ手デ致スコトデアリマスルガ、成ルベク希望ヲ申シマスレバ、廣ク全國ヨリ募ルト云フ積リデアリマス、併シ此農工銀行ノ方ハ法律案ニモ規定シテアル如ク、其地方ノ人ニ限ラレテ居譯デアリマス

○眞下珂十郎君(二百四十二番) シマスルト、全國カラ出タナラバ、東京邊

ノ方ハ減シマシテモ、地方カラヤルト云フ趣向ニナリマスカ

○政府委員(添田壽一君) 御答ヲ致シマス、ソレハ此創立委員ノ專ラ取捨スル所アリマスルガ故ニ、明ニコハデ申上グルコトハ出來マセヌガ、此切捨

等ニ就イテハ、成ルベク公平ヲ得ルヤウニシタイト云フ希望ダケヲ有ツテ居

リマス

○議長(楠本正隆君) 次ハ日程ノ第二、特別委員ノ選舉ノ件ニ移リマス

○高木正年君(百一十九番) 此案ハ後トノ第三、第五ノ日程ト同一ノ委員ニ付託シタイト思ヒマス、一體此案ハ當年ノ議案中テモ最モ重ナル議案デ、其關係ハ全國ノ經濟上ニ及ビマスカラ、務テ此議會中ノ實業ニ明ルイ人ミヲ委員ニ選ンデ、委員ノ數ハ二十七人ノ人ヲ議長指名デ選ミタイト思ヒマス

○議長(楠本正隆君) 銀行ニ係ル三議案ヲ付託スルタメニ、二十七名ノ特別委員ヲ議長指名デ選舉スペシト申スコト……〔贊成ト呼フ者アリ〕

○議長(楠本正隆君) 御異議ナシト認メマヌ、次ハ第三、農工銀行法案——朗讀ヲ省イテ議題ニ供シマス

○議長(楠本正隆君) 銀行ニ係ル三議案ヲ付託スルタメニ、二十七名ノ特別委員ヲ議長指名デ選舉スペシト申スコト……〔異議ナシト呼フ者アリ〕

### 第三 農工銀行法案(政府提出)

#### 第一讀會

(左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ掲載ス)

#### 農工銀行法

##### 第一章 總則

第一條 農工銀行ハ農業工業ノ改良發達ノ爲資本ヲ貸付スルヲ以テ目的トスル株式會社ニシテ其ノ資本金ヲ二十萬圓以上トシ各株式ノ金額ハ二十圓トス

第二條 農工銀行ハ北海道又ハ一府縣ヲ以テ一營業區域トス但土地ノ情況ニ依リ勅令ヲ以テ北海道又ハ一府縣ヲ二箇以上ノ營業區域ニ分割スルコトヲ得

第三條 農工銀行ノ設立ハ一營業區域内ニ一行ヲ以テ限トス

第四條 農工銀行ヲ發起セントスル者ハ十人以上ニシテ總株數ノ十分二以

上ヲ引受クヘシ  
株主トナルコトヲ得ス

第五條 農工銀行ノ營業區域内ニ原籍及住所ヲ有スル者ニアラサレハ其ノ

株主ニシテ農工銀行ノ營業區域外ニ原籍又ハ住所ヲ移轉スルコトアルモ

株主タルノ資格ヲ失フコトナシ

農工銀行ノ營業區域内ノ府縣郡市町村モ亦其ノ株主タルコトヲ得

#### 第二章 營業

第六條 農工銀行ハ左ノ事業ヲ營ムモノトス

一 三十箇年以内ニ於テ年賦償還ノ方法ニ依リ不動產ヲ抵當トシテ貸付

ヲ爲スコト

二 農業者又ハ工業者ニ對シ其ノ生產ニ係ル物品ノ賣買ヨリ生スル爲替手形ノ割引ヲ爲スコト

三 農業者又ハ工業者ニ對シ其ノ生產ニ係ル物品ノ荷爲替貸ヲ爲スコト

四 二十人以上ノ農業者又ハ工業者申合セ連帶責任ヲ以テ借用ヲ申出テタルトキハ五箇年以内ニ於テ定期償還ノ方法ニ依リ無抵當貸付ヲ爲

スコト  
スルモノニ限ル 前條第一號及第四號ノ貸付ヲ爲スハ左ノ事項ニ使用スルヲ目的ト

第七條 委員ヲ議長指名デ選舉スペシト申スコト……〔贊成ト呼フ者アリ〕

一 開墾、排水、灌漑及耕地土質ノ改良  
二 耕作道路ノ築造又ハ改良

三 殖林事業

四 種苗、肥料其ノ他農工業用原料ノ購入

五 農工業用ノ器具、機械、舟車、獸畜ノ購入

六 農工業用建物ノ築造又ハ改良

七 前各項ノ外農工業ノ改良

第八條 農工銀行ニ於テ不動產抵當ヲ徵スルトキハ總テ第一抵當ナルコトヲ要ス但舊債アル場合ニ於テ農工銀行ヨリ借入スル新債ヲ以テ其ノ舊債ヲ償還スル效果ニ依リ新債ノ第一抵當トナルコトヲ得ヘキトキハ此ノ限ニアラス

第九條 農工銀行ニ於テ抵當トシテ徵スル土地ハ永續スヘキ確實ナル收益ノ見込アルモノニ限ル 農工銀行ニ於テ抵當トシテ徵スル建物ハ保險付ノモノニ限ル但抵當物ノ外ニ貸付金高二倍以上ノ價格ヲ有スル動產又ハ不動產ヲ添へ抵當ト爲ス場合ニ於テハ保險ニ付セサルコトヲ得

第十條 不動產ヲ抵當トシテ貸付タル金額ハ農工銀行ニ於テ鑑定シタル價格ノ三分ノ二以内トス

第十一條 年賦金ハ元金ト利子トヲ併セテ之ヲ計算シ各年ヲ通シテ一定平等ノ償還額ヲ定ムヘシ

第十二條 土地抵當貸付ニ對スル年賦金ハ其ノ抵當地ノ平年收益額ヨリ公課額ヲ扣除シタル殘額ヲ超過スルコトヲ得ス

第十三條 貸付金ノ年賦償還ニ付キテハ一箇年以上五箇年以内ニ於テ据置年限ヲ定ムヘシ但其ノ年限間ノ利子ハ此ノ限ニアラス

第十四條 債務者年賦金定期償還金又ハ利子ノ拂込ヲ遲延シタルトキハ拂込期日ノ翌日ヨリ其ノ金額ニ對シ利子ヲ仕拂フノ義務ヲ負フ

第十五條 年賦償還ノ方法ヲ以テ借入ヲ爲シタル債務者ハ償還期限前ニ借用金ノ全部若クハ一部ヲ償還スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ農工銀行ハ定款ニ於テ定ムル所ノ率ニ依リ相當ノ手數料ヲ要求スルコトヲ得

第十六條 債務者ハ借用金ノ五分ノ一以上ヲ償還シタルトキハ其ノ割合ニ應シ抵當物一部ノ解除ヲ要求スルコトヲ得其ノ殘額ニ對シテモ亦同シ

第十七條 農工銀行ハ年賦金ノ拂込ヲ遲延スル債務者ニ對シ償還期限前ト雖貸付金全部ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

第十八條 農工銀行ハ抵當物ノ價格減少シ貸付金償還殘額ニ對シ第十條ノ割合ニ不足ヲ生シタルトキハ増抵當ヲ要求シ若クハ其ノ不足ニ相當スル

貸付金額ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

債務者前項ノ要求ニ應セサルトキハ農工銀行ハ償還期限前ト雖貸付金全

部ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

第十九條 抵當不動產ノ全部若クハ一部カ土地收用法ニ依リ收用セラル、

場合ニ於テ農工銀行ハ償還期限前ト雖貸付金ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

但債務者ニ於テ收用ノ補償金ヲ供託シ又ハ相當ノ不動産ヲ以テ増抵當ト  
スルトキハ此ノ限ニアラス

其ノ收用一部ニ止マルトキハ償還ノ要求モ其ノ割合ニ應スヘキモノトス  
第二十條 農工銀行ハ第六條第一號及第四號ノ貸付ヲ爲シタル場合ニ於テ

債務者カ貸付ノ目的ニ反シ貸付金ヲ使用スルトキハ償還期限前ト雖貸付  
金全部ノ償還ヲ要求スルコトヲ得

第二十一條 農工銀行ハ定期預り金ヲ爲シ又ハ地金銀有價證券ノ保護預リ  
(ヲ)爲スコトヲ得

第二十二條 農工銀行ハ營業上餘裕金アルトキハ一時各種ノ國債證券地方  
債證券及勸業債券ヲ買入レ又ハ他ノ銀行ニ預ケ金ヲ爲スコトヲ得

第二十三條 農工銀行ハ日本勸業銀行ノ代理店タルコトヲ得ス

二十四條 農工銀行ハ此ノ法律ニ記載セサル業務ヲ營ムコトヲ得ス

第三章 農工債券

第二十五條 農工銀行ハ資本金四分ノ一以上ノ拂込アリタルトキハ拂込金  
額ノ五倍ヲ限り農工債券ヲ發行スルコトヲ得但第六條第一號ノ貸付金總  
高ヲ超過スルコトヲ得ス

第二十六條 農工銀行ハ少クトモ第六條第一號ノ貸付金ノ償還高ニ應シ每  
年二回以上抽籤ヲ以テ農工債券ヲ償還スヘシ

第二十七條 農工銀行ハ農工債券借換ノ爲一時第二十五條ノ制限ニ依ラス  
低利ノ農工債券ヲ發行スルコトヲ得

第二十八條 農工債券ノ利子ハ毎年二回定款ニ定メタル時期ニ於テ之ヲ仕  
拂フヘシ

第二十九條 農工銀行ハ第六條第一號ノ貸付金ノ償還延滞シテ豫期ノ金額  
ニ達セサルトキハ第二十六條ノ償還ト同時ニ抽籤ヲ以テ其ノ延滞金額  
ニ相當スル農工債券ヲ償還スヘシ

第三十條 農工債券ノ所有者其ノ元金又ハ利子ヲ要求セサルトキハ元金  
ハ十五箇年利子ハ五箇年ニシテ其ノ要求ノ權ヲ失フモノトス

第三十一條 農工債券ヲ偽造又ハ變造シテ行使シタル者ハ刑法第二百四條  
ノ例ニ依リ處罰ス其ノ模造ニ關シテハ明治二十八年法律第二十八號通貨  
及證券模造取締法ニ依リ處分ス

第三十二條 農工債券ニ關シ此ノ法律ニ規定セサル事項ハ明治二十三年法  
律第六十號ヲ適用ス

第四章 準備金

第三十三條 農工銀行ハ毎年準備金トシテ資本ノ缺損ヲ補フ爲利益ノ百分  
ノ八以上ヲ積立テ及利益配當ノ平均ヲ得セシムル爲利益ノ百分ノ二以上  
ヲ積立ツヘシ

第五章 政府ノ監督及補助

第三十四條 農工銀行ハ農工銀行ノ業務ヲ監督ス  
第三十五條 農工銀行ノ定款ハ主務大臣ノ認可ヲ要ス之ヲ變更セントスル

トキモ亦同シ

第三十六條 農工銀行ニ於テ支店又ハ代理店ヲ設置セントスルトキハ主務  
大臣ノ認可ヲ受クヘシ又主務大臣ニ於テ支店若クハ代理店ヲ要用ナリト  
スルトキハ農工銀行ニ命シテ之ヲ設置セシムルコトアルヘシ

第三十七條 農工銀行ハ主務大臣ノ認可ヲ經ルニアラサレハ株主ニ配當金  
ノ分配ヲ爲スコトヲ得ス

第三十八條 主務大臣ハ農工銀行ノ營業上法律命令又ハ定款ニ背戾シ若ク  
ハ公益ヲ害スル事件アリト認ムルトキハ之ヲ制止スヘシ

第三十九條 農工銀行ハ主務大臣ノ命令ニ從ヒ其ノ營業ニ關スル諸般ノ景  
況及計算報告書ヲ差出スヘシ

第四十條 主務大臣ハ必要ナリト認ムルトキハ農工銀行ノ貸付割引ノ金  
額及方法ヲ制限スルコトヲ得

第四十一條 農工銀行貸付金ノ利子ノ最高歩合ハ毎營業年度ノ初ニ於テ主  
務大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ムヘシ其ノ營業年度内ニ於テ變更セントスル  
トキモ亦同シ

第四十二條 政府ハ特ニ北海道廳府縣高等官中ヨリ農工銀行監理官ヲ命シ  
主務大臣ノ指揮ヲ承ケテ農工銀行ノ業務ヲ監視セシム

第四十三條 農工銀行監理官ハ何時ニテモ農工銀行ノ金庫、券書庫、帳簿  
及諸般ノ文書ヲ検査スルコトヲ得

農工銀行監理官ハ監視上必要ナリト認ムルトキハ何時ニテモ農工銀行ニ  
命シテ營業上諸般ノ計算及景況ヲ報告セシムルコトヲ得

農工銀行監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シテ意見ヲ陳述スル  
コトヲ得但議決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

第四十四條 農工銀行營業補助ノ方法ハ別ニ之ヲ定ム

第六章 罰則

第四十五條 農工銀行ニ於テ左ノ事犯アルトキ取締役ヲ二十圓以上ニ二百圓  
以下ノ過料ニ處ス

一 第六條ノ規程ニ反シ第一抵當ニアラサルモノニ對シ貸付ヲ爲シタル  
トキ

二 第八條ノ規程ニ反シ第一抵當ニアラサルモノニ對シ貸付ヲ爲シタル  
トキ

三 第二十二條第二項ノ規程ニ反シ營業上ノ餘裕金ヲ使用シタルトキ

四 第二十四條ノ規程ニ反シ此ノ法律ニ記載セサル業務ヲ營ミタルトキ

五 第二十五條ノ規程ニ反シ農工債券ヲ發行シタルトキ但第二十七條第  
一項ニ該當スルモノハ此ノ限ニアラス

六 第二十六條第二十七條第二項及第二十九條ノ規程ニ反シ農工債券ノ  
償還ヲ爲ササルトキ

七 第三十三條ノ規程ニ反シ利益金ヲ處分シタルトキ

第四十六條 前條ニ掲ケタル過料ハ裁判所ノ命令ヲ以テ之ヲ科ス但其ノ命  
令ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

過料ノ辨納ニ付キテハ取締役連帶シテ其ノ責任ヲ負フ

附 則

第四十七條 農工銀行ニ關シ此ノ法律ニ規定セサル事項ハ明治二十二年法  
律第七十二號銀行條例ヲ適用ス

○高橋小十郎君(百七十四番) 一寸質問ヲ致シマス、農工銀行法案ノ第六條ノ四ト云フ處ニ「二十人以上ノ農業者又ハ工業者申合セ連帶責任ヲ以テ借用ヲ申出テタルトキハ五箇年以内ニ於テ定期償還ノ方法ニ依リ無抵當貸付ヲ爲スコト」トアリマスガ、財產ノ二十人以上ノ連帶責任ヲ申出タルトキハ貸付ケルト云フ意味デアリマスカ、御説明ニ預リタイ

(政府委員大藏書記官添田壽一君演壇ニ登ル)

○政府委員(添田壽一君) 甚ダ恐入リマスガ、モウ一遍ドウカ

○高橋小十郎君(百七十四番) 第六條ノ四ニ二十名以上ノ者ガ連帶責任ヲ以テ借用ヲ申出ル時ハ、財產ノ有無ヲ問ハズシテ貸付ヲ爲スヤ否ヤ「貸付ヲ爲スコト」トシテアリマスガ、無財產ノ者ガ申立テモ、貸付ケルト云フ意味デアリマスカ、又ハ財產ガナケレバ貸與ヘスト云フ趣意デアリマスカ、ソレヲ質問致シマス

○政府委員(添田壽一君) 御答致シマスガ、此六條ノ第四ハ所謂對人信用ノ端緒ヲ啓クモノデアリマス、故ニ借主ノ資產ト云フモノハ主タル目的デハゴザリマセヌ、即チ其事業ノ確實ナルヤ否ヤト云フノガ主タル目的デアリマス、併シ此借人ガ危險ナ團體デアリマスレバ、ソレハ貸付ケナイ場合モアリマセウガ、此場合ニ於テ主トシテ目的トスル所ハ、其事業ニアリマス

○高橋小十郎君(百七十四番) 然ル以上ハ、第二十條ニ貸借ヲ行ツタ後トデ其目的ニ反シテ貸付金ヲ使用シタトキハ、貸付金ヲ直ニ償還サセルト云フコトガアリマスガ、其時ニナルト、其金ハ他ニ使果シテ身代限リヲスルヨリ外ナイト云フ場合ニナレバ、農工銀行ハ損害ヲ受ケルコト、考ヘル、ソレデモ損害ハ受ケヌヤウナコトニナクテ行キマスカ、如何デアリマスカ

○政府委員(添田壽一君) 御答致シマス、全ク其資產ヲ標準トシナイト云フ譯デハゴザリマセヌカラ、幾分カノ標準ニハナツテ居リマス、故ニ二十條ノ規定ヲ行フ場合ト雖モ、溢ニ損害ヲ受ケナイト云フダケノ豫防ハ致サナケレバナラムト存ジマス

○高橋小十郎君(百七十四番) 然ル以上ハ、農工銀行ハ損ガアリマセヌカ、私ノ考デハ取締ガ出來ヌヤウニ考ヘマス、是デモ出來マスカ

○政府委員(添田壽一君) ソレハ銀行ノ營業ノ場合ニ於キマシテ、事實多少ノ損ノナイト云フ保證ハ出來マセヌケレドモ、成ルベク目的ガ確實デアリ、多少資產ヲ標準ト致シマシテ、損失ノナキヲ務メルコトデアルノデアリマス、如何ナル場合ト雖モ、損害ガナイト云フ保證ハ實際ノ業務次第ニ依ルコトデスカラ、出來難ウゴザイマス、成ルベク無キヲ務メルト云フコトハ勿論デアリマス

○政府委員(添田壽一君) 御答致シマス、此舊債ヲ償還シマスル場合ト雖モ、苟モ此法律ガ農業工業ノ改良發達ヲ大主眼ト致シテ居リマスカラ、其範圍ヲ出デマスルモノハ、此中ニハ矢張這入ラヌ積デアリマス

○田邊久藏君(二百四十番) 本員モ質問ヲ致シマスガ、此設立ト云フモノハ、即チ各府縣ニ於テ一箇所或ハ二箇所ト云フ目的デアリマスガ、其設立ヲ致シマスニハ、地方ニ必要ト認メテ出願ヲスレバ許スト云フ趣旨テアリマスカ、或ハ其筋ニ於テ各府縣ノ有力者ニ向テ勸誘シテ設立ヲサセルト云フ精神デアリマスカ、其發企ノ成立ヲ承リタイ

○政府委員(添田壽一君) 御答致シマス、此農工銀行ノ地方ニ設立セラルノハ、地方ノ農業工業ノ改良發達ノ必要ニ依テ生ジタモノデアッテ、其計畫ガ確實デアリ、其發企ニ加ハッテ居ル人々ガ信用ニ富ミ経験ニ富デ居ルノミナラズ、成立ノ後ト雖モ利益ガ全般ニ及ブモノト認メタルモノデナカラネバ許サヌ積デアリマス、漫ニ政府ガ勸誘スルナラント云フコトハナイ積デアリマス

○金岡又左衛門君(百六十一番) 唯今政府委員ノ答辯ヲ承リマスレバ、元來此

第六條ノ貸付ト云フモノハ專ラ其財產ヲ目的トシテ貸付ケルモノニアラズシテ、其事業ニ對シテ貸與ヘルモノノ財產ト云フ方ヨリ、事業ト云フ方ニ眼ヲ著ケテ此事業ガ果シテ將來ニ見込ノアルモノナラバ、縱令資產ナキモノト雖モ貸與ヘルト云フ精神ト云フコトニ承ツテアル、是ハ尤アル、併ナガラ銀行ノ方カラ見レバ、寧ロ其方ヨリカ金ヲ貸シテ損ヲセナイト云フコトニスルガ、銀行其モノ、最モ注意スベキ要點デアルカラ、銀行ニ於テハ事業ハ相當ノモノデ、將來見込アルモノトシマシテモ、其借りニ來タ人ガ無資產デ信用ノナイン、萬一之ニ貸シテハ將來ニ於テ此金ヲ取ルコトガ出來ヌト云フ虞アリト認ムレバ、此事業ハ目的ナキモノトシテ、之ヲ一モニカク貸與ヘスト云フコトニナレバ、折角政府ガ一カラ四マデノ箇條ヲ設ケテ無資產ノ者ニ融通ヲ付ケルト云フ途ハ杜絕スル譯デアル、サウ云フ場合ニ銀行ガ事業ニ眼ヲ著ケズシテ、其人ノ財產ニ眼ヲ著ケテ金ヲ貸スコトヲ躊躇シタ時分ニハ、當局者ハ其銀行ニ向ツテハ如何ナル方法ヲ以テ之ヲ監督シテ、此法律ノ目的ヲ貫徹スル見込デアリマスカ、承ツテ置キタイ

○政府委員(添田壽一君) 御答致シマス、農工銀行ガドウアツテモ是ハ貸付ケルニ足ラナイト見込ンデ、ソレガ正當ナル見込デアル場合ニ於テハ、ソレハ如何ナル政府ト雖モソレヲ強テサセルト云フコトハ出來ナインデアリマスルガ、極ク見込ノ確ニシテ十分獎勵ヲ與ヘナケレバナラムト云フ場合デアルニモ拘ハラズ、銀行ガ漫ニ唯己ノ利益ニノミ偏シテ其勵シナイ場合ニ於キマシテハ、或ハ已ムヲ得ザル場合ニ於テハ、此第四十條ニ規定シテアリマスク、其銀行ニ對シテ多少ノ命令、指定ヲスルコトハアルノデアリマス

○芦塚省三君(百十三番) 私モ質問ヲ致シマスガ、此第七條ノ各項ニ前條第一號及第四號ノ金額ヲ貸付ケマスル用途ノ種類ヲ色々掲ゲテアリマスガ、其中ニ田畠ニ必要ナル所ノ堤塘又ハ機關ノ改良ト云フヤウナ箇條ハ見エテ居リシタルモノデアリマスカ、又普通ノ舊債デモ宣ウゴザイマスカ、若シ普通ノ負債デモ…許スト云フ場合ニハ、第七條ノ各項ノ目的ヲ達セラレナイヤウニ考ヘマスガ、此法案ノ精神ハ如何デゴザイマセウカ

○政府委員(添田壽一君) 御答致シマス、此舊債ヲ償還シマスル場合ト雖モ、苟モ此法律ガ農業工業ノ改良ト云フ範圍ヲ

脱シマセヌ以上ハ、確ニ貸付ケサセル積デアリマス  
○議長(楠本正隆君) 委員ノ件ハ前ニ決シマシタニ依クテ、次ハ第五、農工  
銀行補助法案、朗讀ハ省略致シマス

第五 農工銀行補助法案(政府提出)

第一讀會

(左) 議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ掲載ス

農工銀行補助法

第一條 農工銀行法ニ依リ設立スル農工銀行ノ營業ヲ補助スル爲政廳ハ豫算ニ定ムル所ニ從ヒ其ノ營業區域ヲ管轄スル府縣(沖繩縣ヲ除ク)ニ其ノ株式引受資金ヲ交付ス

前項ノ交付金額ハ該府縣ノ宅地、鑛泉地、池沼ヲ除キ有租地反別百町ニ付七十圓以内トス但如何ナル場合ニ於テモ一府縣ニ交付スル總額三十萬圓ヲ超過シ又ハ農工銀行拂込資本金ノ三分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス

第二條 北海道及沖繩縣ニ設立スル農工銀行ノ營業ヲ補助スル爲其ノ創立初季ヨリ十箇年ヲ限り政廳ハ豫算ニ定ムル所ニ從ヒ北海道ノ農工銀行ニ貳萬五千圓以内沖繩縣ノ農工銀行ニ五千圓以内ヲ毎年交付ス但農工銀行ノ拂込資本金額ニ對シ一箇年百分ノ五ノ割合ヲ超過スルコトヲ得ス

第三條 府縣ハ第一條ノ交付金ヲ農工銀行ノ株式引受ニ供スルノ外他ニ使用スルコトヲ得ス

第四條 此ノ法律ニ依リ府縣ノ引受ケタル株式ニ對シテハ農工銀行ハ其ノ創立初季ヨリ五箇年間ハ利益配當ヲ爲スコトヲ要セス

前項ノ期限經過後仍五箇年間ハ農工銀行ハ前項府縣引受ノ株式ニ對スル配當金ヲ悉皆準備金ニ繰入ルヘシ

第五條 農工銀行ハ前條ノ期限ヲ經過シタル後ハ此ノ法律ニ依リ府縣ノ引受ケタル株式ニ對シ他ノ株式ト同一ノ利益配當ヲ爲スヘシ

前項ノ配當金ハ府縣ノ收入ニ繰入ルモノトス

第六條 府縣ハ此ノ法律ニ依リ其ノ引受ケタル農工銀行ノ株式ヲ離權スルコトヲ得ス但第七條ノ場合ハ此ノ限ニアラス

第七條 農工銀行創立初季ヨリ十箇年經過ノ後府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ云フモノハ繁劇ニナクテ來ル、互ノ關係交渉ト云フモノハ非常ニ密ニナクテスルカ、且ツ其金ハ何ノ財源カラ出ルノデアリマスルカ、此二條ヲ御尋致シマス

市町村ハ前項ニ依リ交付セラレタル農工銀行ノ株式ヲ基本財產ト爲スヘシ

○門脇重雄君(百五十八番) 農工銀行ニ補助スルタメニ政府ハ交付金ヲ各府縣ニ下付スルト云フコトデアリマスルガ、其交付金ノ總額ハ幾ラデアリマスルカ、且ツ其金ハ何ノ財源カラ出ルノデアリマスルカ、此二條ヲ御尋致シマス

(政府委員大藏書記官添田壽一君演壇ニ登ル)

○政府委員(添田壽一君) 御答ヲ致シマス、先ハ總額ハ一千萬圓以内ノ積リテアリマス、又其財源ハ一般ノ財政計畫ノ中ニ求メル積デアリマス  
○芦塚省三君(百十二番) 御尋ヲ致シマス、造作モナイコトデアリマスガ、此第一條ノ末項ノ所ニ「有租地段別百町ニ付七十圓以内トス」ト、此交付金額ヲ

限ヲアルガ是ハ如何ナル點カラ御割出ニナシタノデアリマセウカ、其理由ヲ一寸承リタイ

(政府委員大藏書記官添田壽一君演壇ニ登ル)

○政府委員(添田壽一君) 御答ヲ致シマス、財源ノ調査ニ致シマスレバ此租地ノ總段別最モ宅地、鑛泉地、池、沼ヲ除キマシタル高ガ、千二百餘万町歩デアリマス、ソレニ既ニ申上ダマシタル一千万圓ヲ割當テマシタル分ハ、殆ド百町歩ニ附キ七十圓ト云フ豫算ガ出タノデアリマス  
○議長(楠本正隆君) 次ハ第七、外國語學校設立ニ關スル建議案、朗讀ヲ省キマス、提出者柏田盛文君

第七 外國語學校設立ノ建議案(柏田盛文君提出)

(左) 議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ掲載ス

外國語學校設立ノ建議

今ヤ我國ハ一躍シテ東洋ノ表ニ雄視シ宇内生存競争ノ衝路ニ當ル固ヨリ百般ノ事物一大刷新ヲ加ヘテ膨脹的ノ資性ニ順應スルノ準備ヲナサ、ルヘカラス殊ニ列國ノ事情ヲ詳悉シ其ノ趨勢ヲ觀察シ談笑ノ際外政ニ商略ニ光榮ヲ發揮シ利益ヲ擴充スル敏快ノ手腕ヲ保ツノ人材ヲ養育スルヲ要ス魯清韓ノ如キハ將來益々密接ノ關係ヲ有スルモノニシテ今猶其ノ言語ヲ教授スルノ學校ナク外交モ商業モ殆ント模索以テ之ニ應セムトス樽組ノ際折衝ノ時麻姑ノ癢ヲ搔クノ快ナキハ豈雄資ノ一大缺點ニアラスヤ英獨佛ノ如キハ頗ル流行ノ觀アルモ要スルニ科學ヲ研究スルノ階梯ニ過キス今總テ是等ノ語學ヲ專修セシムルノ必要アリ茲ニ學校規程ノ要領及學課表ヲ添附シテ参考ニ供ス政府ハ速ニ採納シテ設立ノ舉アラムコトヲ望ム

(柏田盛文君演壇ニ登ル)

○柏田盛文君(百四十七番) 諸君、此教育ノ事ハ戰後ノ經營中、或ル意味ニ於テハ軍事ノ擴張ヨリモ、實業ノ發達ヨリモ、重ナルコトデアルト云フコトハ、先日彼ノ問題ノ時一寸御話モ致シタコトデアリマス、但シ此教育ト云フコトニ附イテ三ツノ大別ガアルト私ハ信ジマス、第一ニ國民教育、所謂日本國ノ相當ノ國民ヲ造ル、所謂宇内ニ冠タル所ノ特性ヲ薰陶スルコトヲ以テ目的トスル所ノ國民教育、ソレカラ今度ハ理化學ノ學問、此日進科學ニ關係シタル學問ヲ研究シテ、天地ノ化合ヲ助ケ、之ヲ應用シテ物質的ノ文明ヲバ進メテ行クト云フコト、ソレカラマア一つハ此科學ノ應用ガ盛ニナルニ從ツテ世界ハ小サクナル、小クナレバ從ツテ接近スル、接近スレバ其互ノ交渉ト云フモノハ繁劇ニナクテ來ル、互ノ關係交渉ト云フモノハ非常ニ密ニナクテ來ル、密ニナルニ從ツテ、優勝劣敗ト云フコトハ餘程度ヲ加ヘルト云フコトハ是ハ物理ノ原則デゴザイマス、然ラバ其關係ヲバ明ニシテ此交際ヲバ或ハ有事ノ日、無事ノ日ニ拘ラズ、コチラガ積極的ノ位置ニ立ツテ十分ノ意志ヲバ應接セシメテ行カウトスルニハ、語學ト云フモノハ極必要アラウト思フ、若シ是が鎖國時代デアツクナラバ左程ノ必要ガナイ、必要ガナイノミナラズ殆ド無用ノモノカモ知レマセヌ、併ナガラ前申ス通、益々密接ノ關係ヲ生ズルニ從ツテ、此必要ト云フモノハ益其度ヲ増シテ來ルト云フコトハ、是ハ自然ノ勢アラウト思フ、苟モ今日宇内ノ形勢ニ活眼ヲバ注ギタル者ハ此必要

トバ感ゼヌ者ハナカラウト思ヒマス、又ソレニ就イテ例ヲ舉グマズ、朝鮮ノ獨立ハ東洋ノ平和ヲ永遠ニ維持スルタメニハ、極必要ノモノデアルト云フコトトデ、一昨年遂ニ宣戰ノ詔勅マテ發セラレテ遂ニ清國ノ驕撃ヲ脫セシムルコトガ出來マシタ、然ラバ今後朝鮮ニ於テハ日本國ガ是ヲバ保護誘掖シテ、益々文明ニ進メテ行クト云フコトハ大ナル重荷ヲ負フタルモノト見ナケレバナリマセヌ、シテ見レバ今マデノ通ニ或ハ外交官ニ於テモ、商人ニ於テモ、言葉モ分ラズシテ瓦ノ狀況モ能ク分ラヌタメニ、隔靴搔痒ノ歎ヲ爲シテ居ルト云フヤウナ有様デアツタナラバ、十分其任ヲ盡シテ行クト云フコトハ出來マイト考ヘマス、又商人ナドノ一例ナドヲ言ッテ見レバ、言葉ノ分ラヌタメニ向フニ行ツテ隨分朝鮮人ヲバ、ヒトイ目ニ遭ハセルコトガアルト云フコトハ往々聞イテ居リマス、若シ言葉ノ分ッタル者ガ其途ニデモ居ツタナラバ、サウ云フコトハ免レタノアラウト思フ、ソレデ是等ノ事ハ極大切ナルコトデアラウト思ヒマス、外交上ノ事ニ於テモ、又商業上ノ事ニ於テモ、極大切ノ事ニアラウト思ヒマス、又支那トノ關係ヲ申シテモ左様デゴザイマセウ、馬關條約デ餘程コチラハ立派ナル所ノ條約ヲバ此通商上ニ於テ取結ビマシタ、雷ニ開港場ヲバ澤山開カレタバカリデナク、内地ニ於テモ事業ノ出來ル様ニナシタ、併ナガラ十分ニソレダケノ勤ヲスル人間ヲ捕ヘナイト云フコトニシタナラバ、丁度世ニ謂フ犬骨折ッテ鷹ノ餌食ト云フコトニナルデアリマセウ、歐羅巴諸國ハ皆最惠國條款ニ據シテ利益ヲバ占ムルデアラウト云フコトハ、皆識者ノ憂ヘテ居ル所デゴザイマスガ、今日ハ餘程其準備ヲバセナケレバナラヌ、準備ヲスルニハ矢張言葉ノ能ク分ル者ヲバ作ラナケレバナラヌト云フコトハ、是ハ極大切ノ事デアラウト思フ、クレカラ外交上ノ事ニシテモ左様デゴザイマス、益々支那トハ親密ニシナケレバナラヌト云フコトハ、苟モ西洋諸國ノ形勢ノ日ニ東洋ニ迫ツテ來ルコトヲバ考ヘタナラバ、誰モ其必要ヲ感知テ居ルコトデゴザイマセウ、シテ見レバ、外交上ニ於テモ成ルベク互ノ情實ノ能ク分ルヤウニ、笑ッテ話ノ出來ルト云フコトデナケレバ、是亦隔靴搔痒ノ歎ハ免レヌコトデアラウト思フノデアル、ソレカラ露西亞トノ關係ニ至ラテハ、今更深ク說カナクトモ誰モ御承知ノ通デゴザイマスガ、若シ西比利亞ジテ居ルコトデゴザイマセウ、商賣上ノ事ハ繁劇トナルデゴザイマセウ、啻ニ商賣上ノ事ガ繁劇ト爲ルノミナラズ、日ニ益々外交上ノ事ハ切迫シテ來ルノデアル、是ハ決シテ前年ノ干渉一件カラ、是ガ切迫シタト云フ譯デハナクシテ、天然ノ地形上ヨリ是ハ必要ノ事デアルト云フコトハ、能ク分リ切ッタコトデアル、此大國ヲバ眼前ニ据ヘナガラ、十分ノ話ヲスルコトモ出來ナイト云フヤウナコトニ至ツタノハ、今迄如何ニモ手落ノコトデアツタト云フコトヲバ感ズルノデゴザイマス、又此條約改正デゴザリマス、條約改正ノ事ハ國民ナラヌコトデアルケレドモ、此準備ト云フコトニ就イテ前年以來種々議論ノトデアルコトデアル、或ハ語學ヲバ準備トスルハ大ナル間違デアルト云フコトケレドモ何ニセヨ對等條約ト云フヤウナ觀ハ爲シテ居リマス、他日内地雜居ノデモシマシタ時ハ、ドウデゴザイマセウカ、是亦十分ノ準備ヲバセナケレバガ總テ望デ居ルコトデゴザイマシタガ、私杯ハ少シ不満足ノ所ガアル、アルケレドモ何ニセヨ對等條約ト云フヤウナ觀ハ爲シテ居リマス、他日内地雜居ノデモシマシタ時ハ、ドウデゴザイマセウカ、是亦十分ノ準備ヲバセナケレバガアツタガ、唯語學バカリシテ向フノ便利バカリ計ルトカ、向ガ條約面ヲ踏破クテ來テモ、外人ハ能ク取扱ハナケレバナラヌトカ、或ハ内地雜居ノ事モ

條約ニ明ニ書イテ宜シイトカ云フコトニ至ツテハ、其頃吾ニハ反對シタコトガアル、勿論立國ノ大義ト云フモノヲ明ニシテ、サウシテ此内地難居ノ事モ私杯ハ十分ニ云フナラバ、條約面ニ書クモノデハナイト云フコトヲバ言ウタコトガアルノデゴザリマス、今日ニナツテハ殆ド行レントスル時デアリマスガ、ソレ等ノ事ハ別問題トシテ、何ニシロ立國ノ大義ト云フモノガ定マツタナラバ、異人ヲ柔ダルト云フコトハ是ハ又王道ノ至徳デゴザイマセウ、ソレデ成ルベク外人ニ便利ヲバ與ヘルト云フコトヲスルノハ、日本ノ外國ニ交際ヲバスル方法デアラウト考ヘルノデアル、ソレニ就イテハ種々ナ必要ヲバ感ズルコトガアル、或ハ警察署ニ行ッテモ直チニ話ガ出來ルトカ、或ハ郡役所ニ行ッテモ話ガ出來ルトカ、或ハ村役場ニ行ッテモ話ガ出來ルトカ、或ハ民大義ト云フモノヲバ誤ルニ至ツテハ、實ニ大變ノ事ト考ヘルノデゴザイマス、ソレデ之ヲバ要スルニ外交ノ局面ヲ一變シマシテ其通廣クナリ、サウシテ近クナリマシタカラ、無事ト有事トニ拘ラズ、實ニ必要ナ事ト思ヒマス、啻ニ外交上バカリデハナクシテ先キカラ申シマス通、通商貿易ノ事ニ至ツテモ實ニ必要デゴザリマス、ソレハ官吏ニモ要スレバ、會社ニモ要スル、或ハ商館ニモ要スル、又普通教育ニ至ツテモ外國語ヲ必要トスル土地ト云フモノハ段々廣マル、今デハ普通教育ニ於テハ必要トスル處ダケ、勿論ヤツテ居リマスル、是ハソノ例ヲバ一寸擧ゲマス、マア外務省デ翻譯官トカ、公使館・領事館・書記生ト云フ者杯ハ極大切デゴザイマセウ、文部省デモ高等學校、或ハ師範學管轄シテ居ル學校ノ語學教員モ亦必要デゴザイマセウ、ソレカラ内外國ノ學校、中學校、實業學校、商業學校ノ語學ノ教員ト云フモノハ益々必要ヲ感シテ來ケレバナラヌト云フコトハ分り切ツタコトデアル、ソレデ其必要ナル所ノ場所ノ例ヲバ一寸擧ゲマス、マア外務省デ翻譯官トカ、公使館・領事館・書記生ト云フ者ハ又必要デアル、海陸軍省デモ編輯局トカ、通譯官トカ、又同省ニ新聞雜誌ヤ或ハ著述、編輯ニ從事シテ居ル者モ段々必要ヲ感シテ來マス、是マデハ我國ノ外國語學ヲバ修メル者ハ、重ニ唯外國人ノ通辯ヲバスルト云フコトデ、其通辯ヲシテ金ヲバ得ルト云フコトデアルタカラ、其弊ト云フモノカ云フ所ハ又必要デアル、海陸軍省デモ編輯局トカ、通譯官トカ、又同省ニ居ルヤウナ有様デアツタガ、其他ノ者ハ唯科學ヲバ研究スルト云フ學生ニ止ツテ居ッタヤウナ有様デアツタノデスケレドモ、先キカラ申ス通りノ日本ノ境遇デアツテ、四方ニ雄視セナケレバナラヌト思フノデアル、唯今帝國大學ニ英、佛、獨云フ望ヲ負ハセナケレバナラヌト思フノデアル、高尙ナル文學デアツテ、語學ノ専ノ分科ノ設ハゴザイマスケレドモ、其目的ハ高尙ナル文學デアツテ、語學ノ専

修デナイカラシテ、卒業生モ澤山ハ居リマセヌ、澤山居ラナイカラシテ、世ノ需要ニ應ズルコトガ難イ、又高等商業學校ニモ其設ハアリマスケレドモ、是モ商業上ニ關シタル學科ヲバ修ムルモノデ、語學ヲ專トスルコトハシナイカラシテ、是モ十分目的ヲ達スルト云フコトハ出來ナイ、語學ノ方ガ……又高等学校デモヤラセルガ、是亦廣ク外ノ學科ニ涉ツテ居ルカラシテ、十分語學ヲ專門トシテヤラナイカラ、是レ亦ソレニ達スルモノガ少ナイ、ソレデ要スルニソレ等ノ者ハ居ルコトハ居リマスケレドモ、皆唯科學ヲバ達スルノ補助ニ過ギナイモノデゴザイマスカラ、語學ヲバ十分流暢ニ善ク話シテ、況ヤムヅカシニ議論ヲバ互ニ上下論難シテ、意志ノ上ニ齟齬セヌヤウナ風ニスルモノハ殆ド居ラナイ位デアル、居ツタ所デ僅ナモノデアル、況ヤ是スラ唯英、佛、獨ニ向ツテノ話デゴザイマシテ、先キカラ極ク必要、目ノ前ノ必要ヲ感ジテ居ル、露西亞、支那、或ハ朝鮮ト云フコトニ至ツタナラバ、今日デハ完全ナル學校モナイ、完全ナル教員モ居ラナイト云フヤウナ有様デアル、斯ウ云フヤウナ有様デアツタナラバ、前ノヤウニ四方ニ雄視セヤウト云フヤウナコトハ、殆ド翼ナクシテ飛バントスルノト同ジヤウナ有様ニ陷ツテ居ルノデゴザイマス、ソレデコヘテ少シ外國語ノ學校ノ變遷ヲバ述ベテ、サウシテ局ヲバ結バウト思ヒマスガ、我國デ外國語ヲバ教授シタル學校ハ始ハ舊書取調所ト云フモノガアリマシタ、後改メテソレヲバ開成學校ト云フコトニナシタ、始ハ英、佛ヨリ……其開成學校ハ明治二年ノ四月建テタノデ、ソレカラ始ハ英、佛ノ二國ノ語學ヲバ置イテ後ニ獨逸ノ學校ヲバ設ケタ、ソレカラ明治六年四月ニ生徒ヲ分ケテ上級ノモノヲバ專門科ノ生徒トシ、下級ヲバ語學ノ生徒トシマシタ、其時課程ノ諸學ハ悉ク外國語デ教ヘタカラシテ、學術上ノ力ヲバ授ケルト云フコトニハ多少不便デアツタケレドモ、其語ヲ學ビ、語ニ熟練スルト云フコトニ至ツテハ、今日ヨリモ隨分優ツテ居ツタト云フコトデアル、ソレカラ明治六年五月ニ至ツテ外務省デ建テタ所ノ獨逸、露西亞、支那、此語學ノ研究所ヲバ開成學校ニ合セテ之ヲバ東京外國語學講習所ト云フタ、ソレカラ其後十三年三月ニハ新ニ朝鮮語學ノ一派モ設ケテアル、ソレカラ明治十四年三月カラ十五年七月ニ至ルマデノ語學生ノ總數ハ三百六十八人ニアツテ、隨分其頃ハ盛ナモノデアツタノデアリマス、ソレカラ十八年ニ至テ學制上或ハ經費上ノ都合デモアリマシタラウ、ソレヲバ廢校シテ露、佛ノ語學生ハ大概豫備門ニ移リ、其外ノ者ハ當時新ニ建テタ商業學校ニ移スコトニナリマシタ、ソレデワレ等ノ時ニ養ツタル所ノ人物ハ、隨分今日政府ニ居ツテ樞要ノ地位ヲ占メテ居ツテ役ニ立ツモノガ餘程居リマス、併ナガラソレデ追ニ外ノ學科ニ移シテ往クト云フコトニナツタノデアリマス、ソレデ其頃丁度十七八年頃ニ至ツテハ、殆ド外國ノ文明ヲバ入レルト云フコトガ過度ニナシテ、所謂唯今ノ伊藤侯、井上伯ノ政略デアツテ、根底ヨリ西洋ノヤウニナラナケレバ、文明ノ仲間入ハ出來ナイト云フヤウナ政略ヲバ執ツタ時分デ、或ハ踊ヲスルトカ、ドウトカ云フ有様ニ次第ニナツタノデゴザイマ

ス、ソレデ殆ド内外ノ別モ、立國ノ大義モ分ラヌト云フヤウナコトカラシテ、遂ニ國粹論者ト云フモノガ出デ、其力デ漸ク救フ……其時ニドウシテモ救フコトガ出來ラレヌ有様デアツタケレドモ、隨分力ヲ盡シテ漸ク喰止メテ居ッタノデゴザイマス、併ナガラ其力ヲバ盡シタ所ノ極ト云フモノハ、殆ド角ヲ矯メテ牛ヲバ殺スト云フヤウナ傾ニナツタサウ云フ様ナコトデアツタ、併ナガラ要スルニマア維新ノ大目的ハ萬里ノ波濤ヲ開拓スルト云フノデゴザイマシタガ、何ニセヨ始ヨリ遠略雄圖ノ國是ガ一定シナイ、始終グランシテ後ニ至ッテハ西洋ノ文明ヲ入レル語學マデモ盛ニナツタケレドモ、是ハ唯小刀細工デ、唯之ヲ用フルダケデ、語學ハ則チ輕薄才子ノ玩弄物トシテ居ルヤウナ有様デアツタノデアリマス、ソレデ識者ハ之ヲバ遂ニ輕蔑スル有様ニナツタ、ソレデ語學モ世間ニハ之ヲ誤解サレテ居リマスガ、餘程誤用モサレテ居ッタノデアリマス、ナゼナラバ此語學ト云フモノハ誘導的ニ出デズシテ始終指導的ニ出デ、居ッタ向フノモノヲバ取ッテ、根底ヨリコチラノモノニシテ改メテシマツテ文明ヲ進メルト云フヤウナ有様デアツタカラ、餘程反動ヲバ惹起シ、反動ノタメニ今ノヤウナ有様ニナツタト云フコトデアリマシタガ、今日ニ至ッテハ、先キ申シタ通ニ、歩ヲ其方ニ斷タレヌヤウナ有様ニナツテ、外交上ノ事モ商業上ノ事モ、段々四方ニ手ヲバ擴ゲルト云フ有様ニナツテハ、此必要ト云フモノハ日々益々感ズルヤウナ有様デゴザイマス、ソレデ今申シタル所ノモノハ、即チ六箇國ノ語デゴザイマスルガ、既ニ御承知ノ通、臺灣モ我ガ版圖ニナツテ、サウシテひりつびん群島モ近クナツタ以上ハ、西班牙語ト云フモノモ必要デアラウト思フ、又伊太利語モ隨分必要デアラウト思ヒマス、ソレデ是等ノ事ハ少シヅ、ハ民間デヤツテ居リマスケレドモ、ナカク始メノ間ハ決シテ民間ノ薄資ヲバ以テ、立派ナコトハ出來得ラレマセヌ、ソレデ、是ハ國家ガドウシテモヤラナケレバナラヌコトデアラウト思フノデアル、ソレデ西洋ノ方ニ於テモ、餘程隔シテ居ル所ノ東洋諸國ト云フモノ、語學校モ立テ、居ルト云フコトハ、決シテ是ハ物好キニヤツテ居ルノデハナカラウト思ヒマス、餘程遠略雄圖ニ一定シタル所ガアツテ、始終變ラナイト云フコトガアルカラデゴザイマセウ、吾ミハ露西亞ヲバ眼前ニ備ヘテ、サウシテ支那ヲバ眼前ニ備ヘテ、又朝鮮モ保護シナケレバナラヌ、誘掖シナケレバナラヌト云フコトガ眼前ニアルニモ拘ラズ、今日マデ——今迄ハアツタ所ノモノヲ廢セラレテ、極ク必要ヲバ感ズル所ノ今日ニ——此學校ノナイト云フノハ實ニ遺憾千万ナルコト、考ヘマス、ソレデ、其經費ニ至ッテモ極多額ヲバ要スルコトデモナシ、其事ノ必要ト云フコトハ益ナガラ外ノコトニモ隨分金モ掛ル今日ノコトデゴザイマスカラ、成ルベク金ガイラズシテ其目的ヲバ達スルヤウナ方法ガアルナラバ、其通りセラレテモニ備ヘテ居リマスガ、是ハ唯ニ當局者ノ参考ニ備ヘルコトデアリマスカラ、成ルベク此標準ニ依ッテ立テラレタイト云フコトヲ希望致シマスル、併ナガラ外ノコトニモ隨分金モ掛ル今日ノコトデゴザイマスカラ、成ルベク金希望致シマス、サウシテ其學校規程ノ要領、又ハ學科表ト云フモノハ、茲ニ備ヘテ居リマスガ、是ハ唯ニ當局者ノ参考ニ備ヘルコトデアリマスカラ、成ルベク此標準ニ依ッテ立テラレタイト云フコトハ益々ノ學校ニ合併シテヤツテモ隨分行レサウダト云フコトハ、其後是ヲバ提出シタ後聞イタコトモアリマスガ、ソレ等ノ事が出來ルナラバ、コレ等ノ事モ一切

當局ノ意見ニ任セテ決シテ差支ナカラウト思ヒマスガ、成ルベク諸君モ御贊成下ヌタ、速ニ通過セラレントヲバ偏ニ希望致シマス

○小幡儀太郎君(二十一番) 大體ハ贊成デゴザイマスガ、此標準ノ所ニ於テ少シク疑點ガゴザイマス、即チ此事ハ委員付託ニナリマセウガ、先づ御發議ノ御意見ノアル所ヲ承リタイト思ヒマス、此各語學悉ク教授二名ト爲ツテ居リマス、即チ清國ニ於テモ韓國ニ於テモ二名、然ルニ本邦現今清國ノ新聞貿易場ハ餘程廣ウナツテゴザイマスルデ、其地方語學ハ或ハ三種四種ニモ分レテ居ルト考ヘマスル、然ルニ朝鮮語學ガ二名デ擔任出來マスル、ソレヲ至當トシマスレバ、清ノ教授モ二名ニシテ教授スルト云フコトガ出來マスルカ、其事ヲ御尋申シマス

○柏田盛文君(百四十七番) 朝鮮語ノ教員丈ガ少ナクシテ時間ヲ澤山持ツテ居ルカラ、サウ云フコトハ出來マイト云フ御尋ニアリマスカ

○小幡儀太郎君(二十一番) 矢張清國デゴザイマス、支那デゴザイマス、韓語ニセ二名、所ガ、韓國ノヤウニ小サイ國ノ所デモ二名ニ一名ナケレバナラヌ、清國ノヤウニ數種ノ語學ヲ教授シナケレバナラヌモノデモ、矢張二名デ出来ルト云フコトデアルカト云フ御尋ニアリマス

○柏田盛文君(百四十七番) ソレハ出來ル積デゴザイマス

○吉本榮吉君(八十二番) 是ハ議長指名ニシテ、九名ノ委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長(楠本正隆君) 吉本榮吉君ノ動議、九名ノ委員ニ付託スルト云フ、尤モ議長指名ニ御異議ナシト認メマスル——次ハ日程ノ第八、區裁判所管轄區域變更法律案——朗讀ヲ省キマスル

○久保九兵衛君(八十五番) 私ハ此區裁判所管轄區域變更法律案ヲ提出致シマシタ、開ク所ニ依レバ、政府カラ今回此法案ヲ提出サル、ト云フコトヲ承テ居ル、其時マデ此決議ヲセラレント云フコトヲ望ミマス

○議長(楠本正隆君) 久保九兵衛君ノ動議、政府案モ遠カラズ出ヅルト云フコトニ承ル、其事ノ確實ニナルマデ決議ヲ延期シタイト申ス提出者ノ意見デゴザリマス

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(楠本正隆君) 然ラバ延期ニ決シマスル——明日ノ日程ヲ報ジマスル  
(佐脇書記官朗讀)

議事日程 第十號 明治二十九年一月十七日(金曜日)

午後一時開議

第一 新聞紙法案(政府提出)  
第二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

## 第一讀會

## 第八 區裁判所管轄區域變更法律案

## 第一讀會

## 衆議院議事速記録第八號正誤

頁段行誤	正	頁段行誤	正
一一四 上 四二 一万七千九十一万七千九百	五十二	一一四 上 四六 六十六	五十六
一一三 上 三〇 形以下議論	正	一二四 上 二三 近イコトハ	近イコトヲ言ヘバ
一一四 上 二三 近イコトハ	正	一一四 上 二三 近イコトハ	近イコトヲ言ヘバ
一一四 上 二三 近イコトハ	正	一一四 上 二三 近イコトハ	近イコトヲ言ヘバ

## ○議長(楠本正隆君) 是ニテ散會ヲ報ジマスル

午後二時二十九分散會

第三 郡制改正法律案(多田作兵衛君外六名提出)  
第四 府縣制改正法律案(多田作兵衛君外六名提出)  
第五 近世史料蒐輯ニ關スル建議案(鈴木重遠君外三名提出)

第一讀會